

第9期

2019年度

報告書

(2019年4月1日～2020年3月31日)



サノヤスホールディングス

証券コード:7022



代表取締役社長 **上田 孝**

今こそ、心ひとつに 「Change & Challenge for the Future」

株主・投資家の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

サノヤスは2011年の持株会社体制への移行以来、造船事業とM&T (Machinery & Technology) 事業の二つの柱を軸とした「ポートフォリオ経営」を基本戦略として事業展開を図ってきました。そして、常に「基本」を重視し「変革」を実践すること、及び「人財重視」の姿勢を貫くことが百年企業として生き続けるため、また「良い会社」を創るための要諦であると考えてまいりました。

コロナ禍と遭遇し、世界も我が国においても社会・経済の「不透明感・不確実性・不安定さ」が異次元レベルに高まってきていることは間違いなさそうです。そういった基本認識の下、当社

3ポイント

- 1 新造船マーケットの不調に伴い、新造船は赤字体質、連結業績も赤字に。
- 2 造船グループは、修繕船・マリン、ガスタンク、プラントの3部門が新造船を支える構造へ。
- 3 M&Tグループは、新たな企業買収と事業会社の再編を通して、新たな成長ステージへ。

グループは2020年の経営基本方針として「Change & Challenge」を掲げました。明るい未来(Future)を自らの力で手に入れるべく、今こそ「変革と挑戦」が重要になると考えております。極めて難しい経営環境ですが、「C&C」をキーワードに、全役職員が心ひとつに積極的に事業展開を図ってまいります。



サノヤス造船(株) 水島製造所の壁面に本年のキーワードを掲げ、「変革と挑戦」を目指しています。

新造船マーケットの不調に伴い、 新造船は赤字体質、 連結業績も赤字に。

2020年3月期の連結業績は、売上高が498億5百万円(前期比3.5%増)、営業損失が17億75百万円(前期は12億72百万円の営業利益)、経常損失が17億10百万円(前期は13億26百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する当期純損失が22億11百万円(前期は13億83百万円の親会社株主に帰属する当期純利益)と極めて不本意な結果となりました。

造船事業において、新造船は約20年ぶりの建造となったカーフェリーを含め8隻を引渡し、新たに5隻を受注した結果、受注隻数残高は2年分弱の13隻となりました。また、マリン事業では官民の修繕船、ガスタンク事業では船用LPGタンク、並びにプラント事業が概ね順調に推移しました。

M&T事業においては、前期に引き続き、建設工事用エレベーターの販売・レンタル並びに化粧品等製造用の真空乳化装置・攪拌機の販売が好調を維持しています。また、ハピネスデンキ株式会社を買収したことを主因として、売上高は前期比7.4%増となりました。

利益面については、新造船事業が熾烈な競争に伴い船価が上がらず赤字基調であることに加え、造船事業の営業キャッシュ・フローは赤字状況が継続しているため、固定資産の減損損失として9億91百万円の特別損失を計上しました。

造船グループは、修繕船・マリン、 ガスタンク、プラントの3部門が 新造船を支える構造へ。

当社の祖業である造船事業のうち、新造船は海運・造船マーケットの需給ギャップが大きく、中国・韓国勢との競争が熾烈化し、厳しい環境が長期間継続しているため、採算を維持して受注を確保することが

難しくなっています。加えて、円ドル為替レートの変動がリスク要因になっています。

従って、予てより新造船に次ぐ事業領域の拡充に努めてまいりました。長年に亘り幅広い実績を持つ修繕船、高速エンジン整備、食品用大型タンクや各種鉄鋼構造物製造、並びに4月に事業部に格上げしたガスタンク部門の船用LPGタンク製造とLNG燃料供給システムのエンジニアリングなどを展開し、造船事業内のポートフォリオを拡充しています。なお、水島製造所のガスタンク生産設備も予定通り4月に完成しました。

新造船は主力商品のバルクキャリアーの品質性能に更に磨きをかけ、環境規制対応への技術開発を着実に行うとともに、生産性向上によるコスト低減を図ることにより、新造船市況・新造船価の低迷状況からの離脱時に備えてまいります。

M&Tグループは、 新たな企業買収と事業会社の 再編を通して、 新たな成長ステージへ。

2018年4月に、それまでの陸上事業とレジャー事業を統合し、新たにM&T (Machinery & Technology) 事業として再編しました。本年1月にオーダーメイドの配電盤メーカーであるハピネスデンキ株式会



社を買収し、4月にはグループ会社(サノヤス・エンジニアリング株式会社とサノヤス建機株式会社)を合併した結果、現在M&Tグループは9社体制となりました。様々な製品・サービスを手掛ける中小企業の集合体ですが、マーケット・顧客層が異なることでリスク分散も可能であると同時に、同じものづくりの観点で見ればシナジー効果を発揮できると考えています。

その観点から、サノヤスMTG株式会社本社の体制・陣容を強化し、4月には企画部・システム企画部・ものづくり推進部・IT化推進部の統括組織として「業務推進支援センター」を新設し、工場部門のQCD改善や人材育成、間接部門の業務効率化・IT化推進、管理会計の導入・定着等の取り組みを有機的に結合し一層加速化することにいたしました。

様々な取り組みをスピーディに実行し、サノヤス

M&Tグループは産業界ではユニークな「中堅企業連邦経営」を目指してまいります。

「C&C」をキーワードにして 厳しい時代を生き抜く。

「Change & Challenge」を今年のキーワードに据えましたが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックという事態が生じ、いま世界も我が国も、企業も個人も新たなステージに入ったと言えるのではないのでしょうか。フィジカルディスタンス確保や三密（密閉・密集・密接）回避など、社会人として個人として、また企業として、決して一過性のものと考えすることはできないように思います。得体の知れな



サノヤス・ライドサービス(株)が運営するパレットタウン大観覧車では、医療従事者の方々への感謝と応援の意を示すため、4月23日から5月6日までの間、ブルーライトアップを行いました。

いウイルスを恐れて対峙するのではなく共生しなければならないとも言われています。

従って、コロナ禍は社会構造や家庭・企業の在り方を見直すことに繋がるチャンスと見ることもできます。在宅勤務やテレワークなども含めて「働き方改革」を一気に進めるチャンスでもあり、まさに「新常態(ニューノーマル)」へチャレンジする好機到来と考え、「Change & Challenge」を実践してまいります。

また、「C&C」には「Communication & Collaboration」の意味もあります。社内においては働きやすい風通しの良い職場環境づくりのため、また顧客や取引先などのステークホルダーの皆さんとは信頼関係の更なる強化とビジネス拡大のために、「対話と協働」が大切であることを肝に銘じ、業績回復に向けて全社一丸となって取り組んでまいります。

なお、次期の連結業績見通しにつきましては、コロナ禍の影響により予想しがたいところが多く、現時点では公表を差し控えさせていただきます。

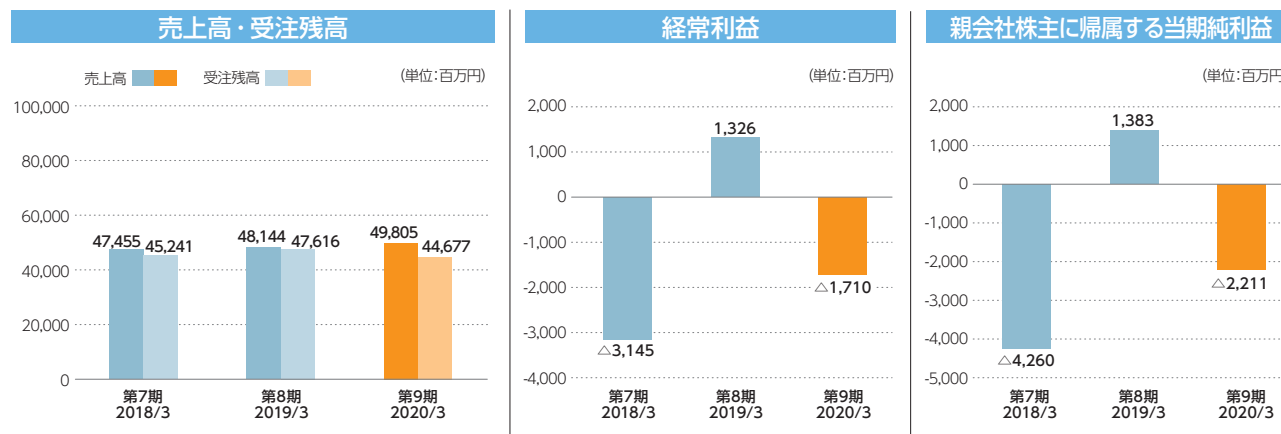
株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

連結財務ハイライト

(単位:百万円)

	第7期	第8期	第9期	前期比
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	増減額/増減率
経営状態				
売上高	47,455	48,144	49,805	3.5%
営業利益	△3,160	1,272	△1,775	—
経常利益	△3,145	1,326	△1,710	—
親会社株主に帰属する当期純利益	△4,260	1,383	△2,211	—
受注残高	45,241	47,616	44,677	△6.2%
財政状態				
総資産	67,635	67,110	63,681	△3,429
純資産	13,446	14,654	11,660	△2,994
自己資本比率	19.8%	21.7%	18.2%	△3.5ポイント
1株当たり指標				
当期純利益(円)	△130.77	42.45	△67.87	△110.32
純資産(円)	411.42	447.74	354.76	△92.98
配当金(円)	5.0	5.0	5.0	0.0

(注) 受注残高の金額は、工事進行基準で記載しております。



水島製造所での船用ガスタンク製造について

2020年3月31日、サノヤス造船株式会社水島製造所(岡山県倉敷市)において新設工事を進めていた船用ガスタンク製造設備が竣工いたしました。今回新設したのは、大型の移動屋根等の設備です。

同社ではかねてより大阪製造所(大阪市西成区)にて船用ガスタンクの製造を行っており、これまでに20年間で47隻の船舶にガスタンクを供給してまいりましたが、本設備の竣工により水島製造所でも製造が可能となることで、次のメリットを得ることができます。

- 大阪製造所の年間最大3隻分の製造能力と合わせ、最大で年間7隻分のタンクを製造することが可能(7,500³LPGタンク換算)
- 水島製造所の広大な敷地と800トン吊りの大型ゴライアスクレーン2基を活用することで、より効率的な製造が可能
- 2拠点での製造体制とすることで、お客様の要望に沿って柔軟な納期提示が可能

加えて、これまで手掛けてきた外航船向けの3,500~7,500³m型のタンクだけでなく、内航船向けタンクにも取り組むべく、営業活動を強化しています。

また、2020年4月1日付で、ガスタンク営業部とガスタンク設計部の統括組織としてガスタンク事業部を発足させ、営業と設計を一貫した新たな体制となりました。サノヤス造船株式会社は、“造船会社”だけでなく、“ガスタンクメーカー”としても更なる発展を続けてまいります。



水島製造所のガスタンク製造設備(移動屋根)

その他の事業展開について

サノヤス造船株式会社ガスタンク事業部では、環境保全の観点から世界的に拡大しているLNG燃料化の需要に対応し、LPGタンクのほかにも様々な分野へ展開を図っています。

- LNGタンクの製造
- LNG燃料供給システム(2020年1月に1号機を搭載した船が竣工)
- LNGバンカリング船用カーゴシステム(2019年2月に開発を完了)

セグメント概況

造船事業

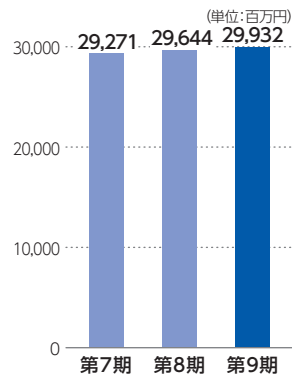
2020年3月期 **売上高** **299億32**百万円

新造船においては、需給の飽和状態が恒常化し依然として船価の回復が見られない中で、受注活動に努めた結果、新82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー4隻、新64千重量トン型ウルトラマックス・バルクキャリアー1隻の計5隻を受注しました。一方、82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー4隻、64千重量トン型ウルトラマックス・バルクキャリアー2隻、60千重量トン型スプラマックス・バルクキャリアー1隻、旅客船兼自動車航送船(カーフェリー)1隻の計8隻を引渡しましたので、受注隻数残高は内定を合わせて13隻となりました。また、マリンでは官民の修繕船、ガスタンクでは船用LPGタンクの営業に注力しました。

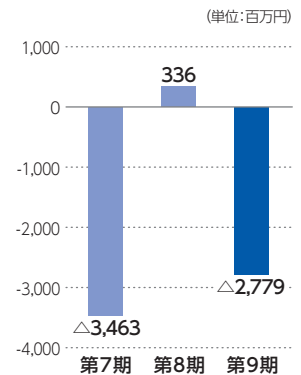


64千重量トン型ウルトラマックス・バルクキャリアー(サノヤス造船㈱)

売上高



営業利益



※「M&T事業」に属していた(株)サノテックを第9期より「造船事業」に変更しました。第8期については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値を掲載しております。



82千重量トン型パナマックス・バルクキャリアー(サノヤス造船㈱)

この結果、新造船にマリン、ガスタンク及びプラント（食品タンク等製造）を含めた造船事業全体の受注残高は、工事進行基準による金額にして36,875百万円となりました。造船事業の売上高は、前期比287百万円(1.0%)増加の29,932百万円となりました。営業損益については資材費や工費の高騰を背景に原価が高

止まりしていることや、2019年3月末対比で円高が進行したことにより、新規受注船を含む今後製造する米ドル建受注済新造船の円換算売上見込額が減少した結果、2,779百万円の営業損失(前期は336百万円の営業利益)となりました。

2,800総トン型旅客船兼自動車航送船「フェリーあい」竣工

2019年12月3日、サノヤス造船株式会社が建造した2,800総トン型旅客船兼自動車航送船「フェリーあい」の竣工・引渡式が同社水島製造所にて挙行されました。

本船は、和歌山港～徳島港間を往復するフェリー「つるぎ」の代替船として建造された、427人の旅客定員(臨時定員としては546人)とトラック37台を積載可能な旅客船兼自動車航送船です。徳島県の名産である「藍染め」の藍色をコンセプトカラーとするとともに、「I(私)」、「愛」、「藍」の3つのキーワードをもとに「フェリーあい」と命名されました。性能面では2機2軸推進方式、船尾双胴船型の採用により省エネ化を実現し、可変ピッチプロペラやフラップラダー、バウスラストのコンビネーション制御により安全な航海及びスムーズな離着岸が可能となっています。客室は、眺めの良いグリーン室、じゅうたん席のほか、シャワー室付きのドライバー室、各席に照明とコンセントを備えたビジネススペース、赤ちゃん一む(授乳室)、紀伊水道を一望できる展望デッキといった多彩な施設

を備えており、乗客に快適な船旅を楽しんでいただけるよう配慮されています。また、航海船橋甲板上煙突内に装備された減揺装置(タンク内の流体の移動により船の横揺れを軽減)によって、より快適な乗り心地を実現しています。

本船の建造で得たノウハウを活かしながら、今後も一般商船だけでなく、フェリーや特殊船の建造にも注力してまいります。



2,800総トン型旅客船兼自動車航送船「フェリーあい」

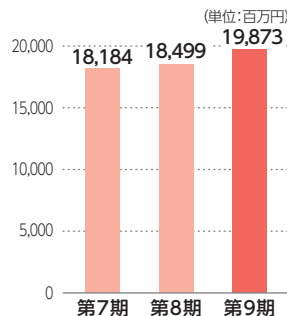
セグメント概況

M&T 事業

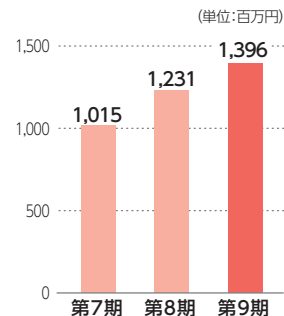
2020年3月期 売上高 **198億73**百万円

M&T事業においては、化粧品等製造用の真空乳化装置・攪拌機の販売が好調を維持したことと、中国における日系企業の工場排水処理設備の伸長と、更に期中に買収したハピネスデンキ株式会社の第4四半期業績の上乗せが寄与しました。この結果、売上高は、前期比1,374百万円(7.4%)増加の19,873百万円、営業利益は前期比165百万円(13.5%)増加の1,396百万円となりました。なお、受注残高は7,802百万円となりました。

売上高



営業利益



※第7期の売上高及び営業利益については、各期の陸上事業とレジャー事業それぞれの数値の合計を掲載しております。

※「M&T事業」に属していた(株)サノテックを第9期より「造船事業」に変更しました。第8期については、変更後のセグメント区分に組み替えた数値を掲載しております。



インラインプラストマシン コンブラー (左)と新たに開発した大型踏板※を搭載した工事用エレベーター (右) (サノヤス・エンジニアリング(株))

※大型踏板は、エレベーターからフロア床先まで距離があったりフロアごと距離が異なる工事現場において、効率的な作業と仮設材の削減に貢献します。



ウェーブスインガー(サノヤス・ライド(株))
ドイツ・ジューラー社より輸入し、京阪ひらかたパークへ今春納入した海外機です。同パークの人気機種でありましたが老朽化に伴い、同機種を再導入しました。

ハピネスデンキ株式会社の買収

2020年1月6日、サノヤスMTG株式会社がハピネスデンキ株式会社の全発行済株式を取得し、同社がサノヤスグループの一員に加わりました。

同社は、1919年4月に創業した東京電業商會を起源とし、1935年11月の森井製作所と合併、1949年4月の森井電業株式会社へ社名変更、2018年1月にハピネスデンキ株式会社へ社名変更など、101年の歴史を経て現在に至ります。創業以来、オーダーメイドの配電盤メーカーとして、様々なニーズに応えた製品を全国各地の施設に提供し、電力の安定供給を支えて来ました。

同社は全国に3つの工場を持っており、開発から設計、組立、検査まで、一貫体制で電気機械器具の製造を行っています。特に茨城工場は動力制御盤の製造に特化した拠点で、3つある工場の中で最大規模を誇ります。また、設計・製造はもちろん、品質管理についても徹底しており、ISO9001とJSIA優良工場の承認を受けているほか、製品を良い状態で長く安心して利用いただくために、全国各地に営業所を構え、

迅速で丁寧なアフターサービスも提供しています。

同社をグループに加えることにより、当社グループの第二のコアビジネスであるM&T (Machinery & Technology) 事業の基盤拡大を図り、中長期的な当該事業の成長と収益の強化を目指します。

今後もサノヤスグループは、幅広い分野において、「確かな技術にまごころこめて」を合言葉に、産業と社会に貢献してまいります。

ハピネスデンキ株式会社の概要

会社名	ハピネスデンキ株式会社 (Happiness Electric Corporation)
事業内容	電気機械器具製造業、電気工事業
従業員数	186名 (2020年3月31日現在)
事業所	本社・東京支社 茨城工場 関西支社・大阪工場 中国支店 九州支店・九州工場 水戸営業所
売上高	3,114百万円 (2019年9月期)

製品紹介



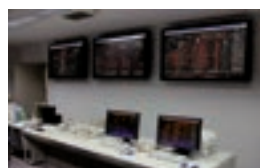
動力制御盤



配電盤



分電盤



中央監視制御装置

納入実績

東京都庁
大阪市役所
成田国際空港
東京国際フォーラム
東京ミッドタウン日比谷
etc...

連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	2018年度末 (2019.3.31)	2019年度末 (2020.3.31)
資産の部		
流動資産	41,112	37,839
5 現金及び預金	20,108	15,623
受取手形及び売掛金	15,305	15,085
電子記録債権	465	535
有価証券	500	500
商品及び製品	251	179
仕掛品	1,117	1,464
原材料及び貯蔵品	659	829
その他	2,725	3,656
貸倒引当金	△21	△33
固定資産	25,997	25,841
有形固定資産	16,760	16,365
建物、ドック船台及び構築物	7,596	7,409
機械装置、運搬具及び工具器具備品	3,985	3,628
土地	4,980	5,168
建設仮勘定	196	158
無形固定資産	752	1,490
投資その他の資産	8,485	7,984
投資有価証券	6,997	5,894
長期貸付金	475	401
繰延税金資産	247	231
退職給付に係る資産	277	254
その他	591	1,346
貸倒引当金	△103	△143
資産合計	67,110	63,681

科目	金額 (単位:百万円)	
	2018年度末 (2019.3.31)	2019年度末 (2020.3.31)
負債の部		
流動負債	31,229	28,284
支払手形及び買掛金	11,489	10,858
設備関係支払手形	460	115
5 短期借入金	4,830	5,442
1年内返済予定の長期借入金	3,853	3,665
未払法人税等	273	200
前受金	4,505	2,696
賞与引当金	495	534
保証工事引当金	167	287
受注工事損失引当金	3,109	2,286
固定資産撤去費用引当金	34	90
5 リース債務	165	261
その他	1,844	1,845
固定負債	21,226	23,736
5 長期借入金	12,699	14,214
リース債務	1,222	1,823
繰延税金負債	2,322	2,181
固定資産撤去費用引当金	—	8
退職給付に係る負債	4,501	5,024
資産除去債務	451	450
その他	28	33
負債合計	52,456	52,020
純資産の部		
株主資本	11,675	9,306
資本金	2,538	2,542
資本剰余金	402	405
利益剰余金	8,739	6,364
自己株式	△5	△5
その他の包括利益累計額	2,915	2,264
その他有価証券評価差額金	3,308	2,708
繰延ヘッジ損益	△2	11
為替換算調整勘定	△169	△286
退職給付に係る調整累計額	△221	△169
新株予約権	63	89
3 純資産合計	14,654	11,660
負債及び純資産合計	67,110	63,681

連結損益計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	2018年度 (2018.4.1 ~2019.3.31)	2019年度 (2019.4.1 ~2020.3.31)
1 売上高	48,144	49,805
売上原価	42,071	46,477
売上総利益	6,073	3,328
販売費及び一般管理費	4,800	5,103
営業利益又は営業損失(△)	1,272	△1,775
営業外収益	558	426
営業外費用	504	361
2 経常利益又は経常損失(△)	1,326	△1,710
特別利益	297	977
特別損失	62	1,223
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	1,562	△1,956
法人税等合計	178	255
当期純利益又は当期純損失(△)	1,383	△2,211
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1,383	△2,211

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

科目	金額 (単位:百万円)	
	2018年度 (2018.4.1 ~2019.3.31)	2019年度 (2019.4.1 ~2020.3.31)
4 営業活動によるキャッシュ・フロー	298	△3,317
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,154	△1,534
財務活動によるキャッシュ・フロー	△135	605
現金及び現金同等物に係る換算差額	90	△23
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△2,901	△4,269
現金及び現金同等物の期首残高	22,224	19,323
現金及び現金同等物の期末残高	19,323	15,053

ポイント

1 売上高

3期連続の増収となりました。

2 経常損失

M&T事業は堅調でしたが、新造船価格の低迷、資材費や工費の高騰や円高進行から造船事業が赤字となり、経常損失は17億10百万円となりました。

3 純資産・自己資本比率

当期末の純資産は、前期末比29億94百万円減少し、116億60百万円となりました。また、自己資本比率は前期末比3.5ポイント下がり、18.2%となりました。

4 営業活動によるキャッシュ・フロー

受注低迷による前受金の減少等から、33億17百万円のマイナスとなりました。

5 有利子負債・現金及び預金

当期末の有利子負債残高は、前期末比26億36百万円増加し254億5百万円となり、現金及び預金は、前期末比44億85百万円減少し156億23百万円となりました。

会社情報

■ 会社概要 (2020年3月31日現在)

商号	サノヤスホールディングス株式会社
設立	2011年10月3日
資本金	2,542百万円
従業員	従業員数 59名 連結ベース 1,988名 平均年齢 42.9歳
本社	〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号

■ 経営理念

「確かな技術に まごころこめて」

■ 役員一覧 (2020年6月23日現在)

代表取締役社長	上田 孝
代表取締役 副社長執行役員	北達 伊佐雄
代表取締役 専務執行役員	北川 治
代表取締役 専務執行役員	松本 裕之
取締役 常務執行役員	多田 勤

取締役	谷口 哲郎※
取締役	森 薫生※
取締役	副島 寿香※
取締役 (常勤監査等委員)	松田 武郎
取締役 (監査等委員)	中尾 誠※
取締役 (監査等委員)	山田 茂善※

常務執行役員	佐藤 正志
常務執行役員	鷺野 伸
常務執行役員	八木 俊輔
執行役員	津村 好英
執行役員	大門 淳

※は社外役員を表します。

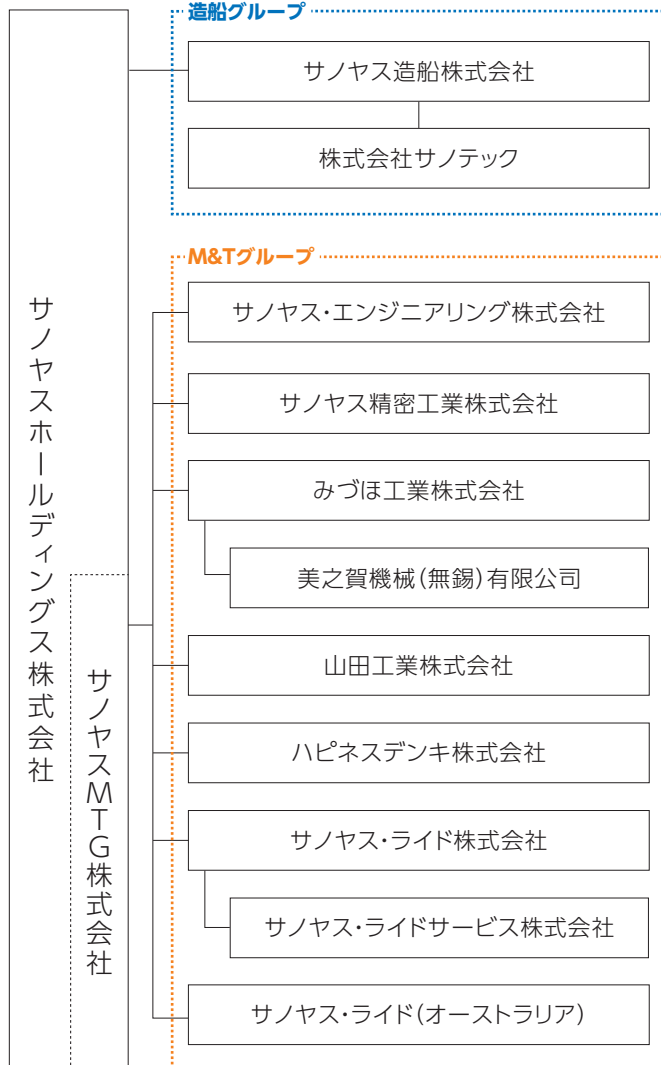
■ 株式情報 (2020年3月31日現在)

株式の状況	発行可能株式総数	120,000,000株
	発行済株式の総数	32,637,500株
	株主数	11,023名

大株主 株主名	持株数(株)	持株比率(%)
サノヤス共栄会	3,545,200	10.87
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託銀行再信託分・住友重機械工業株式会社退職給付信託口)	2,145,000	6.58
株式会社三井住友銀行	1,425,000	4.37
ストラクス株式会社	1,402,000	4.30
三井住友海上火災保険株式会社	1,123,000	3.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,036,300	3.18
住友商事株式会社	1,000,000	3.07
日本製鉄株式会社	844,800	2.59
三井住友信託銀行株式会社	650,000	1.99
伊藤忠丸紅鉄鋼株式会社	564,000	1.73

(注) 持株比率は、自己株式(20,715株)を控除して計算しております。

■ サノヤスグループ一覧



■ 沿革

- 1911年 4月 - 佐野安造船創業
- 1940年 6月 - 佐野安船渠株式会社 設立 (資本金 150万円)
- 1967年 6月 - 大阪証券取引所市場第2部上場
- 1973年 4月 - 資本金 14億3,000万円に増資
- 1974年 1月 - 水島造船所操業開始
- 1974年 2月 - 大阪証券取引所市場第1部上場
- 1984年 8月 - 株式会社サノヤスに社名変更
- 1990年 10月 - 株式会社サノヤスと菱野金属株式会社が合併
- 1991年 4月 - 株式会社サノヤスと明昌特殊産業株式会社が合併
株式会社サノヤス・ヒシノ明昌に社名変更
- 2007年 3月 - 資本金 25億3,800万円に増資
- 2011年 4月 - 創業100周年を機にコミュニケーションネームとして「Sanoyas」を設定
- 2011年 10月 - 単独株式移転により持株会社 サノヤスホールディングス株式会社設立
- 2012年 1月 - 持株会社 サノヤスホールディングスと事業会社による新組織体制をスタート
- 2013年 7月 - 東証と大証の現物市場の統合にともない東京証券取引所市場第1部上場
- 2013年 7月 - Sanoyas Rides Australia Pty Ltd 設立
- 2014年 12月 - サノヤス精密工業株式会社設立
- 2015年 3月 - 株式会社大鋳を買収
- 2016年 4月 - サノヤス商事株式会社がサノヤス安全警備株式会社及びサノヤス産業株式会社と合併し、サノヤス・ビジネスパートナー株式会社に社名変更
- 2017年 4月 - サノヤス精密工業株式会社が加藤精機株式会社及びケーエス・サノヤス株式会社に合併
- 2018年 4月 - サノヤスMTG株式会社設立
- 2018年 6月 - 監査等委員会設置会社に移行
- 2019年 4月 - サノヤス・エンジニアリング株式会社と株式会社大鋳が合併
サノヤス・ビジネスパートナー株式会社と株式会社サノテックが合併
- 2020年 1月 - ハピネスデンキ株式会社を買収
- 2020年 4月 - サノヤス・エンジニアリング株式会社とサノヤス建機株式会社が合併

株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月開催
基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日
その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

公告の方法 当社のホームページに掲載
<<http://www.sanoyas.co.jp/publicnotice/>>
やむを得ない事由により電子公告ができない場合、
日本経済新聞に掲載

単元株式数 100株

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出及びご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-782-031
(平日午前9時~午後5時)

(インターネットホームページ)
<https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

サノヤスホールディングス株式会社

〒530-6109 大阪市北区中之島三丁目3番23号 TEL. (06) 4803-6161 (代)

